

倒伏に強く、よく獲れる赤米うるち新品種「紅衣」の誕生

研究のねらい

近年、赤米への関心が高まり、在来種を中心に各地で赤米が栽培されている。しかし、これらの在来種は草丈が長くて倒伏しやすく、また脱粒しやすいため、機械化栽培には適していない。そこで、東北地域に向く早生で、草丈が短くて倒伏に強く、脱粒しにくい赤米品種を育成する。

研究の成果

「紅衣」は1991年に、多収「奥羽311号（後のふくひびき）」に極早生の赤米「A5（赤室、あかむろ）」をかけ合わせたF₁に、さらに「奥羽331号」を戻し交配して、その後代より育成した品種である。

出穂期と成熟期は、育成地の秋田県大曲市では“早生の早”に属する。草丈が短く脱粒しにくいいため、在来種の草丈の長い赤米に比べると倒伏に強くて栽培しやすい（表）。

収量は「あきたこまち」よりやや多く、赤米としては多収である。玄米の皮が濃い赤茶色で、玄米成分として食物繊維、タンニン、カテキンを多く含み、ぬかの部分の抗酸化活性が高い（表）。

完全に精米した炊飯米は粘りが劣るが、赤色が残る程度に精米したものに粘りが強い低アミロース米（シルキーパール）を混ぜると、粘りが増しておいしくなり、色合いも適当になる（写真2）。

表 「紅衣」の栽培特性（大曲市、2001年）

品種名 系統名	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	食味	玄米成分(/ 100g)			抗酸化活性	
								食物 繊維(g)	タン ニン(g)	カテ キン(mg)	玄米	ぬか
紅衣	8.03	80	18.2	435	0.0	52.3	中上	4.2	0.29	1.6	0.11	1.22
アキヒカリ	8.03	87	17.7	460	0.5	54.9	中中	-	-	-	-	-
あきたこまち	8.07	97	17.6	455	2.5	46.4	上中	2.8	0.08	検出せず	0.00	0.03
赤米在来種	8.27	135	19.7	393	5.0	-	-	-	-	-	-	-

注)「赤米在来種」は山形原産。大曲市では登熟不十分のため、玄米重データなし。
抗酸化活性の数値は粉末1gを5mlDMSOで抽出後、化学発光法で測定したもの(加工利用研究室)。



写真1 「紅衣」の草姿
(大曲市、2001)



写真2 「紅衣」のおにぎり
(左から、紅衣、紅衣+シルキーパール、あきたこまち: 紅衣は赤色が残る程度に精米)

成果の利活用

赤飯、赤粥、雑穀飯などの素材ほか、やや大粒という特性を活かして着色酒の原料として利用することができる。

成熟期間では、一般品種との区別が難しいので、一般品種への種子の混入を避けるため、流れ苗、刈り遅れによるこぼれ種子に注意するとともに、機械類を一般品種と共用しないようにする。花粉の飛散による一般品種の赤米化を防ぐために出穂期が同じ品種の近くで栽培しない。

東北地域以南の平坦地に適する。葉いもち抵抗性、耐冷性が十分でないので、葉いもちの適正防除に努め、また、冷害の常襲地は栽培しない。

成果の発表年 平成13年度(平成14年9月命名登録)

(問い合わせ先: 水田利用部 稲育種研究室 0187-66-2773)